

六所神社節分祭



(2月3日)

節分とは立春の前日を言い、その年の厄ばらいと来る年の福を折る「鬼は外、福は内」と言って、大豆をまく日本の風習です。

今年の節分は、朝から雪が積もり、その後雨に変わるあいにくの天気だったので、六所神社では毎年こういうの「豆まき」はせず、来た人に手渡しで豆を渡していました。

雨だったのにたくさんの人たちが来ていました。みんなその年の厄ばらいと来る年の福を折って来たんだと思います。

今年も福を折って良い年になりたいです。

(内海七夕美)

竹細工教室

ミニおひな様作り

(2月17日)

最初に受付でおひな様を乗せる竹の台をもらいました。おひ

な様の着物はカラフルなちりめん、おだいり様の着物はこん色のかっこいいちりめんでした。

参加した人たちの中で子どもばかりだったので、私にうまく作れるか心配になったけれど、ちゃんと上手に作れました。できあがったおひな様は大切にしたいこうと思います。

(相原美奈)



▲ミニおひな様作り

2月17日に郷土資料館でミニおひな様作りをしました。

城山公園に生えていた竹を台にして、めんぼうや厚紙、ちりめんなど、簡単に手に入れられる材料で作ることができました。

まず厚紙に布をはったものを大小2枚作り、それを重ねて着物にします。次に顔となるめんぼうに黒のちりめんを付け、かみの毛にします。おだいり様の

かみはペンでかきます。えぼしは木の皮にラメのりをぬって頭に付けます。頭と着物を組み合わせ、台に乗せれば完成です。

私はそれに顔をかきこみ、台の両側にたちばなとさくららの絵をかきました。また、家にかざっているおひな様を思い出して、おひな様のおうぎのはしにあまった材料の赤い糸を付けました。

これで私だけのおひな様ができました。意外と時間がかかって大変だったけれど、かわいくできて良かったです。

その日は郷土資料館で『雛の競艶』としておひな様を展示していたのでそれも見にいきました。いろいろな種類のおひな様があつてびっくりしました。その中で特に興味を持ったのが、御殿の中に入っているおひな様です。おだいり様とおひな様の中にあって、ほかの五人ばやしなどは外にならんでいます。見たことのないおひな様がたくさんあつてどれもきれいでした。

私は子ども記者になって今年で2年半をむかえます。2年半の中で、大磯のことをたくさん知ることができました。例えば歴史上の人物を通して大磯を知ったり、イベントに参加して地域を知ったりといろいろな面から大磯を知ることができました。

中学校に行っても大磯とふれ合っていきたいです。

(内海七夕美)

一年を振り返って

私は子ども記者になって今年で2年半をむかえます。2年半の中で、大磯のことをたくさん知ることができました。例えば歴史上の人物を通して大磯を知ったり、イベントに参加して地域を知ったりといろいろな面から大磯を知ることができました。

中学校に行っても大磯とふれ合っていきたいです。

*

私はまだ1年もたっていないけれど、子ども記者になっていろいろな記事を書いてきて、大磯のことを前よりも深く知ることができました。今までは大磯町とはただ「自分の住んでいる町」だと思っていなかったけれど、たくさんさんのイベントに参加して大磯町の自然が豊かなことや歴史の深いことなどがよくわかりました。大磯町のいろいろな面を知ることができて良かったです。

(高島あずさ)

私は去年の4月ごろから子ども記者になりました。

最初のころは「どこへ行けばいいのか」「どんな文を書けばいいのか」となやんでいましたが、だんだん慣れていきました。



▲ミニおひな様 (高島さん作)

(高島あずさ)

E-mail syoshikusunoki@kch.biglobe.ne.jp

古書を買取りいたします

出張でも、本の相談、古い絵葉書、写真、資料なども承ります。

TEL/FAX 0467-82-8975
営業時間 11:00~20:00
定休日 毎火曜日
茅ヶ崎市若松町1-8

書肆 楠の木

◎問い合わせ

このコーナーを手伝ってくれる子ども記者を募集しています。

企画室 内線206

子ども記者になる前はほとんど町の行事へ参加したことがなかったのですが、「こんな行事もあったのだな」とびっくりしたこともありました。

子ども記者になっていろいろな行事へ参加できてとても楽しかったです。これからも子ども記者を続けていきたいです。

(相原美奈)